

教育クラブ

徳島中央高が就労支援に力

電話応対・マナー指導



徳島中央高校が開設しているシヨブシヨブクラブ。校内外のスタッフが連携して生徒の進路相談に応じる＝徳島市の同校

徳島中央高校(徳島市北矢三町一)が生徒の就労支援に力を入れている。定時制と通信制がある同校は近年、小中学時代に不登校を経験したり、学習意欲がなかったりした生徒が「再チャレンジできる学校」としての役割がさらに増してきた。一人一人のチャレンジ意欲を高めようという地道な取り組みが続いている。

以外の
禁止

支援団体スタッフ 週2回相談室開設

19日の午後。校舎2階のオープンスペースで、10人ほどの生徒たちが大きな丸テーブルを囲んでいる。求人雑誌に目を通す生徒もいれば、社会人としてふさわしい言葉遣いを教わっている生徒もいる。自由で和やかな雰囲気が漂う。

同校が毎週火、木曜の正午から午後6時まで開いている相談室「シヨブシヨブクラブ」の一コマだ。就労支援団体「とくしま地域若者サポートステーション」の勧めに応じ、4月にオープンした。ステーションから派遣される臨床心理士や訪問支援員、学生ボランティアら指導スタッフが毎回2人体制で詰めており、就職に関わる個別相談にも応じている。

開設日には毎回、訪れているという3年の坂東美歩さん(18)は、電話応対のビジネスマナーを練習中で「履歴書の書き方も教わった。気を遣わず何でも相談できるのがいい」。同級生の武藤珠里華さん(18)も「友達のことが家であったことも気軽に話している。まだ進路が決まっていないので、相談しながら自分

分に合う仕事を見つけない」と笑顔を見せた。スタッフの仕事は多岐にわたる。採用試験に向けたアドバイスやカウンセリングをはじめ、ハローワークを訪れる生徒に付き添ったり、職場見学できる事業所を紹介したり。進学希望の生徒には学習指導も行う。

程度にとどまっている。定時制高校の位置付けの変化も大きい。一昔前は勤労学生が学ぶ場とされていたが、近年は不登校を経験した子どもらが学び直す場としての存在感がクローズアップされている。進路が決まらないまま卒業すると社会とのつながりを失う恐れがあり、早期に自分の適性を見極める。

定時制層間は昨年度、全学年対象の就労体験を始めた。学校周辺の小売店やパン工場など延べ15社が受け入れに協力。生徒は夏休みの2、3日を利用して仕事の魅力や苦勞を学ぶ。保育施設で子どもとの触れ合いを経験したことがきっかけで、保育士を目指し始めた生徒もいる。

資格取得を主眼に進学を目指す生徒たち向けの年1回のガイダンス「進路フェスティバル」は、個別相談しやすいスタイルに改めた。今年8日に行われ、医療事務や調理師、美容師など生徒に人気のある資格を取得できる県内外の20短大・専門学校の関係者が参加。興味がある生徒と個々に話し合った。

「学校が真にオープンになり、生徒も明るくなった気がする」と中原教頭は強調する。シヨブシヨブクラブの強みは、外部の力を積極的に取り入れることで、厚みのある相談体制をつくっていることにある。

記者の目

意欲的な取り組み 期待

「学校が真にオープンになり、生徒も明るくなった気がする」と中原教頭は強調する。シヨブシヨブクラブの強みは、外部の力を積極的に取り入れることで、厚みのある相談体制をつくっていることにある。

(廣井和也)